令和３年度
和歌山信愛大学
自己点検・評価報告書

令和４年６月

令和４年６月
和歌山信愛大学

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、平成 31 年４月に開学した和歌山信愛大学の令和３年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

令和４ 年 ６ 月 30 日

令和４年６月
和歌山信愛大学

理事長

森田　登志子

学長

森田　登志子

ALO

秋吉　博之

令和４年６月
和歌山信愛大学

【目次】

１．　令和３年度開講授業科目における自己点検・評価

２．　令和３年度の委員会等の活動報告

３．　令和３年度ＦＤ・ＳＤ活動

令和４年６月
和歌山信愛大学

１．令和３年度開講授業科目における自己点検・評価

和歌山信愛大学　令和3年度開講授業科目における自己点検・評価（前期科目）
【1年生授業科目】

		年度	2021	2021	2021
		期	前期	前期	前期
Q	1	授業者	大山輝光	小林康宏	辻伸幸
Q	1	授業名	情報処理論	日本語表現	英語コミュニケーションⅠ
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	1	0	0
Q	2	2. 演習	0	1	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	1	1	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q	3	3. レポート	0	0	0
Q	3	4. その他　具体的に：			
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	1	0
Q	4	2. やや思う	1	0	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	0
Q	5	2. やや思う	0	0	1
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	1	0
Q	6	2. やや思う	1	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0	1
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	新型コロナウイルス感染症の影響により、対面型授業からハイフレックス型授業へ急遽移行することが考えられたことから、シラバスとテキストを作成する際、両者に対応できるよう工夫した。また、適宜、演習を取り入れながら授業を行い、理解の深化を図った。		今年度は、本授業の授業改善に繋げることができる事前アンケート、大学実施の授業評価アンケート、追加授業評価アンケート、TOEIC模擬テスト等を実施し、詳細な分析をすることができた。詳しくは、和歌山信愛大学紀要第3号に掲載。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	1
Q	9	2. やや思う	1	1	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	本授業の科目平均は全体平均と概ね同じ傾向が見られる。その中で、「互いに学びあう機会」については全体平均よりも低くなっているためため、改善に向けて取り組みたい。		・リーディングパートの取り組み時間を増やし、内容も充実させる。 ・高い英語力をもつ学生への応用問題を開発する。

		年度	2021	2021	2021
		期	前期	前期	前期
Q	1	授業者	森﨑陽子	木本毅	森下　順子
Q	1	授業名	スポーツと健康Ⅰ（講義）	教職論	保育原理
Q	2	授業の形態			
Q	2	1．講義	1	1	1
Q	2	2．演習	0	0	0
Q	2	3．実験	0	0	0
Q	2	4．実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1．期末試験	1	1	1
Q	3	2．平常点（小テスト・小レポート等）	0	1	1
Q	3	3．レポート	0	1	1
Q	3	4．その他　具体的に：			
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1．そう思う	1	0	0
Q	4	2．やや思う	0	0	1
Q	4	3．あまり思わない	0	1	0
Q	4	4．そう思わない	0	0	0
Q	4	5．該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1．そう思う	1	0	0
Q	5	2．やや思う	0	1	1
Q	5	3．あまり思わない	0	0	0
Q	5	4．そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1．そう思う	1	0	0
Q	6	2．やや思う	0	1	1
Q	6	3．あまり思わない	0	0	0
Q	6	4．そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1．そう思う	1	0	0
Q	7	2．やや思う	0	1	1
Q	7	3．あまり思わない	0	0	0
Q	7	4．そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	学生にとってより身近な健康に関する事例を取り入れた。ICT機器の活用も試みた。	教科書の重要事項については下線を施し多くの具体的説明を加えた。前時の講義レポート提出に際して、その内容について、より多くの質疑をを行うことで、復習の定着が図れた。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1．そう思う	1	0	0
Q	9	2．やや思う	0	0	1
Q	9	3．あまり思わない	0	1	0
Q	9	4．そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	講義内容が、日々の生活に活かされるように工夫したい。	誤字、誤植は、適切に修正・対応し、今後はなきよう心掛けたい。	学生の主体性を引き出すために、歴史的人物等を調べて発表することや、予習復習のための課題を与えたが、学生自身の自己評価が低い結果となった。次年度は課題に対して、さらに具体的に提示し授業外の学びを深めるよう指導したい。

		年度	2021	2021	2021
		期	前期	前期	前期
Q	1	授業者	戸澗幸夫	溝口希久生	秋吉博之
Q	1	授業名	図画工作Ⅰ	音楽Ⅰ	生活Ⅰ
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	0	0
Q	2	2. 演習	1	1	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	1	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	0
Q	3	3. レポート	0	1	1
Q	3	4. その他　具体的に：	作品評価、演習カードの記述内容、授業の取り組み状況	授業における活動を観察したり、その活動を振り返ってリフレクションシートに記述させ思考・判断・表現力や技能を評価した。期末試験は、知識を評価した。	教材作成とその説明（プレゼンテーション）
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	0	1
Q	4	2. やや思う	0	1	0
Q	4	3. あまり思わない	1	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	1
Q	6	2. やや思う	1	1	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	実践力を高めるため更に教材研究したい。	器楽演奏については、一度中間発表を行う。その後、演奏を録画した自分の班の動画を見て、改善点を見出し、最終発表に活かした。	授業中の個人やグループの発表を取り入れてレポート課題を作成するようにしたことで、発表中の学生の意識は高まり、授業態度の向上が見られた。このことは今後も継続したい。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	1
Q	9	2. やや思う	0	0	0
Q	9	3. あまり思わない	0	1	0
Q	9	4. そう思わない	1	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	なし		シラバス活用の項目が比較的に低かったので、初回の授業での確認を十分に行いたい。

		年度	2021	2021
		期	前期	前期
Q	1	授業者	溝口希久生	桑原　義登
Q	1	授業名	鍵盤演奏入門	発達心理学
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	0	1
Q	2	2. 演習	1	0
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	0	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1
Q	3	3. レポート	0	0
Q	3	4. その他　具体的に：	最終回は発表演奏会とし、今までの活動内容の到達度評価として位置付けた。	期末試験７０％、毎回行う小レポートと授業態度３０％
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	0
Q	4	2. やや思う	1	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	0
Q	5	2. やや思う	0	1
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	0	0
Q	6	2. やや思う	0	1
Q	6	3. あまり思わない	1	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	0
Q	7	2. やや思う	0	1
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	前年度の資料をさらに改善し、学生の音楽の認識の観点からより詳細な資料を作成した。	具体的な事例による説明を多くした。DVDにより、視覚的に子どもの発達を理解できるようにした。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	0	1
Q	9	3. あまり思わない	1	0
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的		
Q	10	具体的事例		予習復習が十分でないとのことであり、予習復習の課題を提示していくようにしたいと考えました。

【2年生授業科目】

		年度	2021	2021
		期	前期	前期
Q	1	授業者	大山輝光	千森　督子
Q	1	授業名	情報処理演習Ⅱ	地域の生活文化
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	0	1
Q	2	2. 演習	1	0
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	0	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	0
Q	3	3. レポート	0	1
Q	3	4. その他　具体的に：		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	1
Q	4	2. やや思う	1	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	0
Q	5	2. やや思う	0	1
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	1	0
Q	6	2. やや思う	0	1
Q	6	3. あまり思わない	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	新型コロナウイルス感染症の影響により、対面型授業からハイフレックス型授業へ急遽移行することが考えられたことから、シラバスとテキストを作成する際、両者に対応できるよう工夫した。	具体例を写真や図面等の視覚で捉えられる資料として提示するように工夫した。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的		
Q	10	具体的事例	本授業の科目平均は全体平均と概ね同じ傾向が見られる。その中で、特に「予習・復習」と「シラバスの有効性」が低くなっているためため、改善に向けて取り組みたい。	授業形態が講義なので一方的に教師からの伝達となり、学生相互間での学び合いの機会が少ないのが課題です。これはコロナ禍という社会状態も影響しています。一昨年に比べて昨年は、やや改善できましたが、学生の意見を聞く機会、学生が意見交換する機会を増やしていきたい。

		年度	2021	2021	2021
		期	前期	前期	前期
Q	1	授業者	千森督子	小林康宏	秋吉博之
Q	1	授業名	地域力再生論	国語（書写を含む）	理科
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	1	1	1
Q	2	2. 演習	0	0	0
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	1	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	0	0
Q	3	3. レポート	1	1	1
Q	3	4. その他　具体的に：	成果発表（プレゼンテーション）	模擬授業的活動	理科学習内容への取組
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	1	1	1
Q	4	2. やや思う	0	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	1	1
Q	6	2. やや思う	1	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	コロナ禍での制約がある中で、学生たちが地域の課題をリアルに把握できるよう、授業の進め方やグループワークの方法等も工夫しながら授業を展開できた。グループ分けについても、学生の希望を聞いて柔軟に対応したことで、結果的にうまくいった。		教員採用試験に関連する事項について、丁寧に解説をおこなった。この中で教採に向けて取り組んでいる学生の意識が高まった。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	1
Q	9	2. やや思う	1	1	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	引き続き、規模の大きいグループですべての学生が充実した学びを達成できるよう、課題の提示方法の工夫やディスカッションのサポートなどの点で改善を試みたい。		理科内容の説明に時間を取られ、観察・実験の時間が十分に取れなかった。今後はできるだけ多くの観察・実験を実施する機会を設定していきたい。

		年度	2021	2021
		期	前期	前期
Q	1	授業者	小林康宏	戸澗幸夫・桐山由香
Q	1	授業名	子どもの言葉	子どもの表現Ⅱ
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	0	0
Q	2	2. 演習	1	1
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	1	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	1
Q	3	3. レポート	1	1
Q	3	4. その他　具体的に：	実技	演習カードの記述内容、授業の取り組み状況、発言内容
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	1	0
Q	4	2. やや思う	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	1
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	1	0
Q	6	2. やや思う	0	1
Q	6	3. あまり思わない	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例		実践力を高めるため更に教材研究したい。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	1	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	1
Q	10	改善点があれば　具体的		
Q	10	具体的事例		担当教員の打ち合わせを丁寧にしたい。

		年度	2021
		期	前期
Q	1	授業者	村上凡子
Q	1	授業名	幼児理解の理論と方法
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	1
Q	2	2. 演習	0
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	0
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0
Q	3	3. レポート	0
Q	3	4. その他　具体的に：	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	1
Q	4	2. やや思う	0
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	1
Q	5	2. やや思う	0
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	1
Q	6	2. やや思う	0
Q	6	3. あまり思わない	0
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	1
Q	7	2. やや思う	0
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	授業方法の面での改善点は、予習ノートを配信したことである。オンライン授業、対面授業どちらであっても理解度、主体的参加度の向上を図るため、次回の授業ノートの概要を事前に配信し、授業当日ノートを充実させる方法を採用した。内容の面での改善点は、シラバスに即して幼児教育、保育場面で実際に起こり得ることを多く取り上げたことである。理論と実践の往還が教師教育で重視されている。学生の授業評価に基づくと、一定の成果はあったと考える。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	1
Q	9	3. あまり思わない	0
Q	9	4. そう思わない	0
Q	10	改善点があれば　具体的	
Q	10	具体的事例	根本的な改善点は要請されていないと考えるが、基礎的知識の定着と現場で実践できる能力の一層の習得を図るため、思考力、判断力に基づいた行動力を高めたいと考える。

【3年生授業科目】

		年度	2021	2021
		期	前期	前期
Q	1	授業者	木本毅	戸潤幸夫
Q	1	授業名	教師への道Ⅰ	造形表現研究
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	1	0
Q	2	2. 演習	0	1
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	1	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1
Q	3	3. レポート	0	0
Q	3	4. その他　具体的に：	指導者毎に試験実施（4回）	作品評価、演習カードの記述内容、授業の取り組み状況
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	0
Q	4	2. やや思う	1	0
Q	4	3. あまり思わない	0	1
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	0	1
Q	5	2. やや思う	1	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	0	0
Q	6	2. やや思う	1	1
Q	6	3. あまり思わない	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	0	1
Q	7	2. やや思う	1	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	教員採用検査一般教養試験に向けて、基礎的内容の徹底とともに具体的事例説明と演習の充実を図った。	実践力を高めるため更に教材研究したい。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	1	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	1
Q	10	改善点があれば　具体的		
Q	10	具体的事例	特記事項なし。	なし

		年度	2021	2021
		期	前期	前期
Q	1	授業者	村上凡子	森下　順子
Q	1	授業名	特別支援教育・保育Ⅰ	相談援助
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	0	0
Q	2	2. 演習	1	1
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	1	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	1
Q	3	3. レポート	0	1
Q	3	4. その他　具体的に：		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	0
Q	4	2. やや思う	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	1	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	0
Q	5	2. やや思う	0	1
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	1	0
Q	6	2. やや思う	0	1
Q	6	3. あまり思わない	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	2021年度はじめて本学で担当した科目である。基本的であると捉えられる専門用語の意味を正しく理解できるよう、毎回復習シートに取り組む時間を授業時間内に設けた。授業方法の工夫として、実際に園の実践報告等の事例を取り上げ、現実の子どもの姿と関連づけて理論を学ぶことを志向した。障がいの基本的な捉え方、支援の原則は両コース共通の内容であるが、両コースで内容を少し変更し、幼児期、学童期それぞれの対応を取り上げた回がある。	今年度が初めての科目であったことから、前年度と比較できない。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的		
Q	10	具体的事例	小学校教育実習、幼稚園実習Ⅱに向けて、ユニバーサルデザインの保育、教育という観点から学習指導案の作成を、授業で取り上げる予定である。2021年度はこの活動を後期の「特別支援教育・保育Ⅱ」で取り上げた。しかし、実習に参加する前に取り上げることで、誰一人取り残さず、どの子どもの能力を伸ばすことを学生が意識し、授業をデザインすることが期待できる。	学生の主体性を引き出すために、グループワークを積極的に取り入れたが、学生自身の自己評価が低い結果となった。次年度は、具体的な課題を提示し授業外の学びを深めるよう指導したい。

		年度	2021
		期	前期
Q	1	授業者	村上凡子
Q	1	授業名	教育相談支援
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	1
Q	2	2. 演習	0
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	0
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0
Q	3	3. レポート	0
Q	3	4. その他　具体的に：	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	0
Q	4	2. やや思う	0
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	1
Q	5	2. やや思う	0
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	1
Q	6	2. やや思う	0
Q	6	3. あまり思わない	0
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	1
Q	7	2. やや思う	0
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	2021年度はじめて本学で担当した科目である。教職コアカリキュラムに基づき内容が規定されているため、その範囲で授業方法で可能な限りの工夫を志向した。実践力を高めるため、場面指導における役割演技を導入した。また、基本的な概念の理解度を高めるため、毎回復習問題への解答と自由記述の振り返りを求めた。基本的な文章作法や論理だてて話す力に課題のある学生も多く、当番制で前回に授業に関するコメントを全員の前で話すことも課した。授業開始、つまり3年生当初と比較して全14回が終了する頃には、提出物の内容から、これらの基本的なアカデミックスキルの能力は向上したと捉えている。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	1
Q	9	3. あまり思わない	0
Q	9	4. そう思わない	0
Q	10	改善点があれば　具体的	
Q	10	具体的事例	学生からは根本的な指摘はないが、理論を実践力に転換することには大きな課題があると考えている。次年度は、基本的な理論と実際の教室での指導場面との往還をより意識していきたい。学校現場で求められる教育相談に関する側面の能力を学生が高められるよう、座学だけではなく、現実に学校で生じていることに即して場面指導を取り入れたいと考える。

		年度	2021	2021	2021
		期	前期	前期	前期
Q	1	授業者	山本紀代	秋吉博之	辻伸幸
Q	1	授業名	初等教科教育法（算数）	初等理科教育法（理科）	初等教科教育法（英語）
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	1	1	1
Q	2	2. 演習	1	0	0
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	1	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	1	0	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	0	1
Q	3	3. レポート	1	1	0
Q	3	4. その他　具体的に：		模擬授業への取組	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	1	0
Q	4	2. やや思う	0	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	1	0	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	1	1	0
Q	6	2. やや思う	0	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0	1
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	予習・復習の方法について、各講義の終わりに次回に向けて具体的に説明をした。 教科の特性を踏まえたうえで、グループ活動での自由度が保証できるように時間配分を工夫した。 各回の講義のレポートには、講義全体についての感想を含め評価させ、学生の声を次の講義に活かすようにした。	教育実習前の学生に実践的な授業をおこなった。特に観察・実験を踏まえた模擬授業では、学生は熱心に取り組み成果をあげた。	小学校教員として必要な外国語科や外国語活動を指導できる最低限の教育方法の確実な定着のために、受講者全員が模擬授業を実施することができた。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	1	0	0
Q	9	2. やや思う	0	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	お互いの模擬授業について、学生同士での話し合いに十分な時間がとれなかった。模擬授業の準備・相談からまとめの話し合いができるよう、模擬授業の進め方を再構成する。	模擬授業では、できるだけ多くの学生に機会を設けられるように工夫改善をしていきたい。	小学校教育実習の実地授業で、外国語科や外国語活動を実施することを強く推奨していくことが必要と考える。

		年度	2021	2021	2021	集計
		期	前期	前期	前期	
Q	1	授業者	山本紀代	森下　順子	森下　順子	
Q	1	授業名	総合的な学習の時間指導論	保育実習Ⅰ（施設）	保育実習指導Ⅰ（施設）	
Q	2	授業の形態				
Q	2	1. 講義	1	0	0	16
Q	2	2. 演習	1	0	1	15
Q	2	3. 実験	0	1	0	1
Q	2	4. 実習・実技	1	1	0	3
Q	3	成績評価の方法				
Q	3	1. 期末試験	1	0	0	19
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1	20
Q	3	3. レポート	1	1	1	16
Q	3	4. その他　具体的に：				
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善				
Q	4	1. そう思う	0	0	0	10
Q	4	2. やや思う	0	0	0	8
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0	4
Q	4	4. そう思わない	0	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	1	1	1	8
Q	5	意欲的に参加できるような工夫				
Q	5	1. そう思う	1	0	1	22
Q	5	2. やや思う	0	1	0	8
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫				
Q	6	1. そう思う	1	1	1	15
Q	6	2. やや思う	0	0	0	12
Q	6	3. あまり思わない	0	0	0	3
Q	6	4. そう思わない	0	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫				
Q	7	1. そう思う	1	1	1	26
Q	7	2. やや思う	0	0	0	4
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例				
Q	8	具体的事例	前半は講義中心の内容であるが、具体例をあげることで身近な問題であることを意識するようにした。 後半は、グループの希望を優先した課題設定とした。話し合いや活動の予定をグループで考え、実行する時間を確保した。	今年度が初めての科目であったことから、前年度と比較できない。	今年度が初めての科目であったことから、前年度と比較できない。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善				
Q	9	1. そう思う	1	0	0	6
Q	9	2. やや思う	0	1	1	18
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0	3
Q	9	4. そう思わない	0	0	0	3
Q	10	改善点があれば　具体的				
Q	10	具体的事例	全体に学習内容の量が多いので、グループでの作品を意見交換する時間がとれなかった。「総合的な学習の時間」の特性を考え、カリキュラムマネジメントの視点から１講義の展開を工夫する。			

和歌山信愛大学　令和3年度開講授業科目における自己点検・評価（後期・通年科目）
【1年生授業科目】

		年度	2021	2021
		期	通年	後期
Q	1	授業者	星野正道	星野正道
Q	1	授業名	信愛教育Ⅰ	いのちと倫理
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	1	1
Q	2	2. 演習	1	0
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	1	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	0
Q	3	3. レポート	0	0
Q	3	4. その他　具体的に：	ノート提出	ノート作り 共同レポート用紙作成作業
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	1	1
Q	4	2. やや思う	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	1	1
Q	6	2. やや思う	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	コロナ感染予防のため個人発表をひかえさせなければならなかったので自分の考えをノートにまとめる時間を多めにとった。ノートを集め教員が読みコメントすることで授業時間では語り合うことのできないようなコミュニケーションができた。また授業ノートをとる力も年度が進むにつれて向上したことが伝わって来た。	コロナ感染予防のため予定していた小グループに分かれての討議、発表は控えることとした。その代わりに一定の時間をとって毎回、ペーパーを配りそこに各自の考えていることを書き、自分以外の2名にもコメントや自分の考えを書いてもらうこととした。そうすることで同じ倫理的問題について他の人はどのように考えたり、悩んだり、困っているかを分かち合うことができた。また誰かに読んでもらうことを前提とした文章の書き方を心がけることもできた。ある場合は他の人に伝えるための文章を書くための指導もできた。このことによって平素より自分の倫理的態度や社会のあり方について考えたり観察するといった予習復習を意識化することにつながった。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的		
Q	10	具体的事例	常に心がけていることではあるが、あらゆる機会を利用して学生に声がけをし、その時々の学生の状態を把握しようと思っている。学生の生きる力の援助となるようこれからも心がけたいと思う。	現代の若者がどのような意識で倫理的生活を送っているかを知ることを大切にしていこうと考えている。その中で自分たちに直接関わりの無いところで苦しんでいたり悲しんでいる人の存在をどのように意識化するかを探求していく授業の取り組みを考える機会になった。学生たちのメッセージに深く感謝している。

		年度	2021	2021	2021
		期	通年	後期	後期
Q	1	授業者	森﨑陽子	辻伸幸	大山輝光
Q	1	授業名	ボランティア実習	英語コミュニケーションⅡ	情報処理演習Ⅰ
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	0	0
Q	2	2. 演習	0	1	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	1	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	1	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q	3	3. レポート	0	0	0
Q	3	4. その他　具体的に：	ボランティア実習への取り組み		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	1	0	0
Q	4	2. やや思う	0	1	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	1
Q	6	2. やや思う	1	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	1	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	0	1
Q	7	2. やや思う	0	1	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	新型コロナウイルス感染症により、ボランティアの学外実習に関して細心の配慮を行いながら、実習先、学生ともに不利益のないように工夫をしながら授業を展開した。また、学内での授業時間を増やし、災害ボランティアをはじめ、各種ボランティアに関わる実践者を招いてゲスト講義を行い、学外実習の時間減少を埋め合わせ、学生がボランティアに関心と意欲を育めるよう配慮した。	受講生の興味関心を高めるため、教科書主体の授業を基本としつつ、英語の動画、歌等を使った内容を組み入れ、授業評価アンケート結果からも肯定的な意見があった。	新型コロナウイルス感染症の影響により、対面型授業からハイフレックス型授業へ急遽移行することが考えられたことから、シラバスとテキストを作成する際、両者に対応できるよう工夫した。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	ボランティア実習に取り組むうえで、自発的に予習・復習すべき事項について、より具体的に提示しながら学習を促すよう改善したい。	英語運用力の能力差が大きいので、それに対応する教材開発、指導法の改善が必要である。	本授業の科目平均は全体平均と概ね同じ傾向が見られるが、「予習・復習」と「シラバスの有効性」については若干低いため、今後、改善に努める。

		年度	2021	2021	2021
		期	通年	通年	通年
Q	1	授業者	森﨑陽子	森﨑陽子・辻伸幸	大山輝光
Q	1	授業名	スポーツと健康Ⅱ（実技）	教職キャリアデザイン	教職基礎ゼミナール
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	1	0
Q	2	2. 演習	0	0	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	1	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	0	1
Q	3	3. レポート	0	1	1
Q	3	4. その他　具体的に：	実技の評価・夏期休暇中の課題レポート・授業ノート		発表等
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	1	0	0
Q	4	2. やや思う	0	1	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	0	1
Q	5	2. やや思う	0	1	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	1	0	1
Q	6	2. やや思う	0	1	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	0	1
Q	7	2. やや思う	0	1	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	体育実技授業において、初めてICT機器の活用を試みた。学生個々の実技の習得、学生間の学び、担当教員指導に大きな効果を見ることができた。	各々の実習において、担当者による密な情報交換を行うように心がけた。	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮しつつ、学生間や教員との対話による交流・学びを大切にするよう工夫した。また、具体例を示しながら、詳しく説明するように心がけた。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	1	1	0
Q	9	2. やや思う	0	0	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	学生による授業評価アンケート結果より、「授業の内容・方法」が他の項目に比べやや低い評価であった。ICT機器の活用をより効果的に行えるように工夫したい。	各学生が、理想とする将来像を描くことができるように、シラバスの組み込まれている基礎実習に向けてのガイダンスの充実を図りたいと考えている。教育現場を深く観察させることで、これからの学びの目標を高く持たせたい。	本授業の科目平均は、「授業への取り組み」や「授業内容・方法」、「授業の成果」の全ての項目において、全体平均よりも良い結果であった。その中で、「シラバスの有効性」については若干低い傾向が見られるため改善に向けて取り組みたい。

		年度	2021	2021
		期	通年	通年
Q	1	授業者	辻伸幸・小田真弓	千森督子
Q	1	授業名	教職基礎実習	地域連携フィールド学習
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	0	0
Q	2	2. 演習	0	0
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	1	1
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	0
Q	3	3. レポート	1	1
Q	3	4. その他　具体的に：	実習の取り組み	積極的な実習態度
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	0	1
Q	4	2. やや思う	1	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	0	1
Q	5	2. やや思う	1	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	0	0
Q	6	2. やや思う	0	1
Q	6	3. あまり思わない	1	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	・小学校の実習では、どのような観点をもって実習をするのか学生にしっかりと理解させ実施することができた。また巡回指導教員の共通理解を十分に図り、実習の充実ができた。 ・4回の事前指導を実施することで、幼保の教職基礎実習(観察実習)の目的や実習生としての心構え、実習生としてのマナーを理解した上で幼保実習に参加することができた。	フィールドでの体験には特に力を入れて実施したが、事前・事後学習では、学生間の交流が図れるように、グループ編成をして課題に取り組んだり、研究発表する様に工夫した。また、コロナ禍において、地域でのフィールド学習を成立させるために、日程・プログラムの柔軟な変更、学内での事前・事後学習の充実等の工夫を行い、学生たちの学びを深めることができたと考える。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的		
Q	10	具体的事例	・小学校の実習では学生たちがこれからの教育実習に結び付く基礎理解を得ることができた。さらに教育実習責任者として和歌山市教育委員会や実習校との連携を密にしていきたい。 ・学生の授業評価（自由記述）では、幼保の実習か小学校の実習についてか判別が難しいので、今後、自由記述でどちらについての自由記述か分かるように実施する。 ・実習受け入れ先が決まり次第、配属を決定して学生に知らせ、準備や下見等に十分な時間がとれるようにする。	コロナ禍であったので、昨年は自然・産業・文化財を中心に体験・学習を実施したが、今年度は子どもの教育面でも機会を設けたく考えている。また、授業の時間外の予習・復習の方法について、読むべき文献を具体的に指示するなどの改善が考えられる。

		年度	2021	2021	2021
		期	後期	後期	後期
Q	1	授業者	木本毅	戸澗幸夫	溝口希久生
Q	1	授業名	教育制度論	図画工作Ⅱ	音楽Ⅱ
Q	2	授業の形態			
Q	2	1．講義	1	0	0
Q	2	2．演習	0	1	1
Q	2	3．実験	0	0	0
Q	2	4．実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1．期末試験	1	0	0
Q	3	2．平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q	3	3．レポート	1	0	1
Q	3	4．その他　具体的に：	授業への参加態度	作品評価、演習カードの記述内容、授業の取り組み状況	授業中の活動内容や活動後のレポート、及び授業中の技能テストにより評価した。
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1．そう思う	0	0	0
Q	4	2．やや思う	1	0	1
Q	4	3．あまり思わない	0	1	0
Q	4	4．そう思わない	0	0	0
Q	4	5．該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1．そう思う	1	1	0
Q	5	2．やや思う	0	0	0
Q	5	3．あまり思わない	0	0	1
Q	5	4．そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1．そう思う	0	0	0
Q	6	2．やや思う	1	1	0
Q	6	3．あまり思わない	0	0	1
Q	6	4．そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1．そう思う	1	1	1
Q	7	2．やや思う	0	0	0
Q	7	3．あまり思わない	0	0	0
Q	7	4．そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	講義の復習を求めて、毎回講義内容を纏めてレポート提出させ、それに基づくＱ＆Ａを講義の導入段階で行った。講義4回ごとに小テストを実施した。	実践力を高めるため更に教材研究したい。	新たな領域による教材（日本伝統音楽によるお囃子づくり）による課題解決学習を導入した。学生に非常に有効な教材であることがわかった。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1．そう思う	0	0	0
Q	9	2．やや思う	0	0	0
Q	9	3．あまり思わない	1	0	1
Q	9	4．そう思わない	0	1	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	講義が数分延長になることが数回あったが、今後は時間厳守に努めたい。	なし	

		年度	2021	2021	2021
		期	後期	後期	後期
Q	1	授業者	秋吉博之	秋吉博之	戸澗幸夫・桐山由香
Q	1	授業名	生活Ⅱ	子どもと環境	子どもの表現Ⅰ
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	1	1	0
Q	2	2. 演習	0	0	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q	3	3. レポート	0	0	0
Q	3	4. その他　具体的に：			作品評価、演習カードの記述内容、授業の取り組み状況
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	1	1	0
Q	4	2. やや思う	0	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	1
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	1	1	0
Q	6	2. やや思う	0	0	1
Q	6	3. あまり思わない	0	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	教材の制作では、互いに学び合えるような発表会の場を設定し、学生の意欲や主体性を高めた。	保育教材の制作では、互いに学び合えるような発表会の場を設定して、一定の成果をあげることができた。	実践力を高めるため更に教材研究したい。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	1
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	今回の改善点を次のシラバスに反映させて、オリエンテーションの時に学生がよく理解できるように説明したい。	今回の改善点を次のシラバスに反映させて、オリエンテーションでは学生へ丁寧に説明のうえ授業を行いたい。	担当教員の打ち合わせを丁寧にしたい。

		年度	2021
		期	後期
Q	1	授業者	村上凡子
Q	1	授業名	教育心理学
Q	2	授業の形態	
Q	2	1. 講義	0
Q	2	2. 演習	1
Q	2	3. 実験	0
Q	2	4. 実習・実技	0
Q	3	成績評価の方法	
Q	3	1. 期末試験	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0
Q	3	3. レポート	0
Q	3	4. その他　具体的に：	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善	
Q	4	1. そう思う	1
Q	4	2. やや思う	0
Q	4	3. あまり思わない	0
Q	4	4. そう思わない	0
Q	4	5. 該当しない	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫	
Q	5	1. そう思う	1
Q	5	2. やや思う	0
Q	5	3. あまり思わない	0
Q	5	4. そう思わない	0
Q	6	シラバス等の工夫	
Q	6	1. そう思う	1
Q	6	2. やや思う	0
Q	6	3. あまり思わない	0
Q	6	4. そう思わない	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫	
Q	7	1. そう思う	1
Q	7	2. やや思う	0
Q	7	3. あまり思わない	0
Q	7	4. そう思わない	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例	
Q	8	具体的事例	１．　形成的評価について－－　学生が学修成果を獲得できるよう、毎回の復習問題と2回の小テストによる形成的評価に基づき、理解度の低い内容は再度説明をする時間を設けた。学生からの評価によれば、これらは理解度を上げるために有効であったと捉えられる。2.　詳細なシラバスの配布－－　キーワードやその回の学修内容を記載したものを別途配布した。キーワードに関する予習に関しては任意としたが、クラスに紹介することで他の学生も予習の意義がわかり、取り組むようになっていった。この点に関しても、その回で重点的に学ぶポイントがつかみやすいという意見を日頃から聞いていたため、今後も続けていきたい。3.　意見交流の時間の設定－－授業進行に余裕のあるときに、ペアやグループによる意見交流の時間を設けた。この点も継続していきたい。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善	
Q	9	1. そう思う	0
Q	9	2. やや思う	0
Q	9	3. あまり思わない	1
Q	9	4. そう思わない	0
Q	10	改善点があれば　具体的	
Q	10	具体的事例	学生から意義を感じている授業方法に関しては今後も継続していきたいと考えている。

【2年生授業科目】

		年度	2021	2021
		期	通年	後期
Q	1	授業者	星野正道	桑原　義登
Q	1	授業名	信愛教育Ⅱ	こころの科学
Q	2	授業の形態		
Q	2	1. 講義	1	1
Q	2	2. 演習	1	0
Q	2	3. 実験	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0
Q	3	成績評価の方法		
Q	3	1. 期末試験	1	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	0
Q	3	3. レポート	0	0
Q	3	4. その他　具体的に：	ノート提出	期末試験７０％、最後に行う小レポートと授業態度３０％
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善		
Q	4	1. そう思う	1	0
Q	4	2. やや思う	0	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫		
Q	5	1. そう思う	1	0
Q	5	2. やや思う	0	1
Q	5	3. あまり思わない	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0
Q	6	シラバス等の工夫		
Q	6	1. そう思う	1	0
Q	6	2. やや思う	0	1
Q	6	3. あまり思わない	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫		
Q	7	1. そう思う	1	0
Q	7	2. やや思う	0	1
Q	7	3. あまり思わない	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例		
Q	8	具体的事例	コロナ感染予防のため個人発表や小グループでの討議を差し控えた。それにかわってノート作り時間をもうけ自分の経験や内面を文章化する訓練をした。また予習として平素の生活での問題意識や自分行動を見直しに心がけさせそれをノートに記し提出してもらった。それに対して励ましのメッセージを私が書き良いコミュニケーションの機会となった。復習として自分の気づきをどのように生かせたか、生かせなかったかも記録に残せたので学生にとっても成長の記録になったようである。生き方、心のあり方、人生の方向と選びをテーマとする科目であるのでノートの活用は結果として役に立ったと思っている。	二人の授業であり、事例検討を入れながら具体的な研究方法を学んでもらいました。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善		
Q	9	1. そう思う	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的		
Q	10	具体的事例	学生の考えていること、今の時代に感じていること、問題意識やこまっていることを日常のやりとりの中で自然に知る方法をさがす必要があると感じている。そのために廊下でのすれ違いや何気ないやりとり、またオフィスアワーにやってくる時をとらえて研究しようと思う。	実践的な授業展開の有効性を感じました。

		年度	2021	2021	2021
		期	通年	後期	後期
Q	1	授業者	千森他	桑原　義登	山本紀代
Q	1	授業名	地域連携フィールドゼミナール	社会的養護	算数
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	1	1
Q	2	2. 演習	1	0	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	1	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	0	1
Q	3	3. レポート	0	0	0
Q	3	4. その他　具体的に：	ゼミ学習・フィールド学習への取り組み、研究発表会	期末試験７０％、最後に行う小レポートと授業態度３０％	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	1	0	0
Q	4	2. やや思う	0	1	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	0	1
Q	5	2. やや思う	0	1	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	1
Q	6	2. やや思う	1	1	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	0	1
Q	7	2. やや思う	0	1	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例		コロナ渦の中で社会的養護での実習体験ができなかったので、里親施設などの現場を説明しているYouTubeを多く活用した。 グループによる事例検討もいくつかとり入れました。	主体的に学ぶよう、講義中１回以上は発言の機会をつくる。 具体物や教具をもちいて、数学的活動の実際を毎回体験させる。 毎回のレポートから理解の状態を探り、講義前に復習を兼ねて解説を行う。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	全体的に学生評価は高く、特に改善すべき点はみあたらないが、各ゼミ単位で昨年度の反省を踏まえて、今年度の計画をたてるようにする。	予習を促すような企画が必要と思った。	内容の理解度に差があることや、もともと数学に苦手意識をもっている学生がいるなど個人差が大きい科目である。内容にかかわるエピソード等のトピックを増やし、親しみをもたせるよう工夫する。

		年度	2021	2021	2021
		期	通年	後期	後期
Q	1	授業者	溝口希久生	千森督子	辻伸幸
Q	1	授業名	器楽	家庭	初等英語
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	0	0
Q	2	2. 演習	1	1	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	1	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	0	1
Q	3	3. レポート	0	1	0
Q	3	4. その他　具体的に：	随時、授業中実技テストにより、形成的評価を行っていった。	作品、授業への貢献	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	1	0
Q	4	2. やや思う	1	0	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	0
Q	5	2. やや思う	0	0	1
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	0
Q	6	2. やや思う	1	1	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0	1
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	0	1
Q	7	2. やや思う	0	1	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	随時、実技テストにより主要三和音と属七和音の実技テストを行ったことで、大半の学生が習熟できた。	住居や被服では実習をできるだけ取り入れるように工夫した。しかし、コロナ禍なので調理実習はできなかったのが残念であった。	小学校の英語教育で必要となる活動（チャンツ、絵本の読み聞かせ、歌、クイズ、言語活動等）について、理論を理解したうえで、実際に演習して技能を獲得できるように授業を構成した。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例		授業への取り組みの評価がやや低いので、学生が意欲的・主体的に取り組めるように改善したい。	・小学校教員にとって必要な英語運用力（英検2級程度）の養成をさらに高めるような学習方略を伝えていく。

		年度	2021	2021	2021
		期	後期	後期	後期
Q	1	授業者	小林康宏	秋吉博之	溝口希久生
Q	1	授業名	初等教科教育法(国語)	初等教科教育法（生活）	初等教科教育法(音楽)
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	1	1	0
Q	2	2. 演習	0	0	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	1	0	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	1
Q	3	3. レポート	0	0	0
Q	3	4. その他　具体的に：	模擬授業		模擬授業を全員課して、思考・判断・表現力及び技能の観点から評価した。中間テストと期末テストにより知識を評価した。
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	1	1	0
Q	4	2. やや思う	0	0	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	0	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	1	1	0
Q	6	2. やや思う	0	0	1
Q	6	3. あまり思わない	0	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例		学修教材の制作をもとに、互いに学び合えるような模擬授業の場を設定した。	模擬授業について、より個に応じた指導に心がけた。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1	1
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例		学生にあった授業進度として、さらにわかりやすい説明ができるように改善したい。	授業の本質的な理解に個人差がある。その点について、授業改善の課題である。

		年度	2021	2021	2021
		期	後期	通年	通年
Q	1	授業者	戸澗幸夫	小田真弓	小田真弓
Q	1	授業名	初等教科教育法（図画工作）	幼稚園実習Ⅰ	幼稚園実習指導Ⅰ
Q	2	授業の形態			
Q	2	1．講義	1	0	0
Q	2	2．演習	0	0	1
Q	2	3．実験	0	0	0
Q	2	4．実習・実技	0	1	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1．期末試験	0	0	0
Q	3	2．平常点（小テスト・小レポート等）	0	0	0
Q	3	3．レポート	1	0	1
Q	3	4．その他　具体的に：	指導案の内容、学習の取り組み状況	外部評価	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1．そう思う	0	0	1
Q	4	2．やや思う	0	0	0
Q	4	3．あまり思わない	1	0	0
Q	4	4．そう思わない	0	0	0
Q	4	5．該当しない	0	1	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1．そう思う	1	1	1
Q	5	2．やや思う	0	0	0
Q	5	3．あまり思わない	0	0	0
Q	5	4．そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1．そう思う	0	0	0
Q	6	2．やや思う	1	0	0
Q	6	3．あまり思わない	0	1	1
Q	6	4．そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1．そう思う	1	1	1
Q	7	2．やや思う	0	0	0
Q	7	3．あまり思わない	0	0	0
Q	7	4．そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	実践力を高めるため更に教材研究したい。	実習直前に授業を実施した。クラスの枠を外し、実習園ごとに実施した。	実習日誌の書写を行うことからはじめ、「子どもの活動」、「保育者の援助・配慮」、映像を見て日誌作成と4段階に日誌を作成した。わらべ歌を実演したり、ゲームの遊び方を実演したり、歳児に応じた集団遊びの資料を配布して紹介した。 実習園ごとのグループワーク(部分保育の交流や振り返り等)を取り入れた。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1．そう思う	0	0	0
Q	9	2．やや思う	0	1	1
Q	9	3．あまり思わない	0	0	0
Q	9	4．そう思わない	1	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例		実習までに十分な準備を行っているか、実習に対する不安等がないか、必要に応じて個別面談を行う。	実習に向けて、授業以外に各自で取り組まなければならないこと(ピアノの練習、手遊び・絵本などの教材研究)がたくさんあるため、いつまでにどれだけの教材研究を行っておかなければならないかということを具体的に知らせる。

【3年生授業科目】

		年度	2021	2021	2021
		期	通年	通年	後期
Q	1	授業者	千森督子	森﨑陽子・辻伸幸	木本毅
Q	1	授業名	インターンシップ（事前・事後指導を含む）	キャリアガイダンスⅠ	教師への道Ⅱ
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	1	1
Q	2	2. 演習	0	0	0
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	1	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	0	1
Q	3	3. レポート	1	1	0
Q	3	4. その他　具体的に：	外部評価、授業への参加度		授業への参加態度
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	0	0
Q	4	2. やや思う	0	0	1
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	1	1	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	0	0
Q	5	2. やや思う	0	1	1
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	0
Q	6	2. やや思う	1	1	1
Q	6	3. あまり思わない	0	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	0	1
Q	7	2. やや思う	0	1	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	短期大学の秘書の専門教員に講義に来ていただき、ビジネスマナー教育の充実を図る等の工夫を行った。また、インターンシップの実習では、学内図書館での体験も試みた。	大学のキャリアセンターと密接に連携して、外部講師を招聘し、受講生が自身のキャリアを考えることができるように工夫した。	講義の内容（社会、理科、数学、特別支援教育）を始めに理論を説明し、それに基づく実践問題（含教員採用試験問題）を指導した。講義担当が変わる毎にテストを実施し、理解の定着を図った。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	1	0
Q	9	2. やや思う	1	0	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0	1
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	受講生が2名と少人数だったために、学生相互間で学び合う機会がとれなかった。次年度は機会を設けていきたい。	学生から、「授業への取り組み」「授業内容・方法」「授業の成果」共に全体平均より低い評価を得た。学生の感想なども参考にし、まず「授業内容・方法」を見直し、授業の開設時期、内容が学生にとって必要とする時期、事項と合致できるよう考えたい。	特記事項なし。

		年度	2021	2021	2021
		期	通年	後期	後期
Q	1	授業者	溝口希久生	村上凡子	森下順子
Q	1	授業名	鍵盤演奏の表現技法	特別支援教育・保育Ⅱ	地域と子育て支援
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	0	1
Q	2	2. 演習	1	1	0
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	1	1
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	0	1
Q	3	3. レポート	0	0	1
Q	3	4. その他　具体的に：	自分が取り組んだ曲を指導者に演奏するかたちをとった。最終会に演奏会のかたちをとり、相互評価を行った。		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	0	0
Q	4	2. やや思う	0	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	1	1	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	0	1
Q	5	2. やや思う	0	1	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	0
Q	6	2. やや思う	0	1	1
Q	6	3. あまり思わない	1	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	0	1
Q	7	2. やや思う	0	1	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	前期は、毎回、指導内容に応じた詳細な資料や指導を心がけた。	学生が自分の考えをペアの相手やグループ内、あるいは全体の前で発表する時間を意図的に設けた。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	1	0
Q	9	2. やや思う	1	0	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0	1
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例		予習を課したが、その成果を一部の学生は実感していないようだ。予習の内容と方法を検討し、学生が意義を感じることのできる予習になることを目指したい。特別支援教育に関する制度の側面に関しては、基本的知識の獲得が求められるため、小テストの実施は継続していきたい。プリントの配布とノートを取る事の両方を採用したが、次年度は書く量を精選するとともに、考える時間も取り入ていきたい。	

		年度	2021	2021	2021
		期	後期	通年	通年
Q	1	授業者	森下順子	小田真弓	小田真弓
Q	1	授業名	保育相談支援	幼稚園実習Ⅱ	幼稚園実習指導Ⅱ
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	0	0
Q	2	2. 演習	1	0	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	1	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	1	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	0	0
Q	3	3. レポート	1	0	1
Q	3	4. その他　具体的に：		外部評価	
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	0	0
Q	4	2. やや思う	0	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	1	1	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	0
Q	6	2. やや思う	1	0	0
Q	6	3. あまり思わない	0	1	1
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	事例検討やグループワークを行いながら、学生が主体的に授業が参加できる工夫をした。	6月実習、9月実習1か月後の実習となるため、計画的に準備ができるように4月末に準備しておく課題を知らせ、各自のペースで準備できるようにした。	責任実習指導案の書写を行うことからはじめ、「朝の会」、「昼食」、「帰りの会」、部分実習指導案3種の指導案の作成課題を出した。 学生が行った模擬保育の改善案を具体的に知らせた。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	1
Q	9	2. やや思う	0	1	0
Q	9	3. あまり思わない	1	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例		実習のための提出物や、提出課題を計画的に行えるように一覧表を作成し、提示する。	実習に向けて、授業以外に各自で取り組まなければならないこと(ピアノの練習、手遊び・絵本などの教材研究、指導案作成)がたくさんあるため、いつまでにどれだけの教材研究を行っておかなければならないかということを具体的に知らせ、実習までに余裕をもって準備できるようにする。

		年度	2021	2021	2021
		期	通年	通年	通年
Q	1	授業者	辻伸幸・山本紀代	辻伸幸・山本紀代	小田真弓
Q	1	授業名	小学校実習	小学校実習指導	保育実習Ⅰ(保育所)
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	0	0
Q	2	2. 演習	0	1	0
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	1	0	1
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	0	0
Q	3	3. レポート	1	1	0
Q	3	4. その他　具体的に：	教育実習評価表		外部評価
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	0	0
Q	4	2. やや思う	0	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	1	1	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	0	0	1
Q	5	2. やや思う	1	1	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	0
Q	6	2. やや思う	0	0	0
Q	6	3. あまり思わない	1	1	1
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	巡回指導教員が、教育実習中に複数回の巡回指導を実施し、大学側の指導を充実させた。課題がある学生に対しては、教育実習責任者が実習校を訪問して、対象学生を指導し、指導教員や管理職と情報を共有した。学生の問題行動で教育実習が中断した学生が1名いたが、初期対応を迅速に行い、適切に対応できた。	小学校教育実習をスムーズに進めることができるようにするため、小学校教員経験がある担当者で、児童理解、学校理解を深める内容を充実させた。また、専任の教員が配置されていない、道徳教育と社会科教育について、実地授業の指導力を高めるため、外部のゲストティーチャーを招聘し実践的な授業を展開できた。	3歳未満児の実態と保育方法について、写真やイラストを用いて、実際の保育所の様子を知らせ、できるだけ不安を軽減して実習に参加できるようにした。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0	1
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	・教育実習校の熱心な充実した指導の結果、学生たちの成長を目の当たりにすることができたので、さらに教育実習責任者として和歌山市教育委員会や実習校との連携を密にしていきたい。	小学校教育実習が、初めて実施されたので、受講生のニーズに合わせた実践的な授業内容を充実させていきたい。	

		年度	2021	2021	2021
		期	後期	通年	後期
Q	1	授業者	小田真弓	小田真弓	小田真弓
Q	1	授業名	保育実習Ⅱ	保育実習指導Ⅰ(保育所)	保育実習指導Ⅱ
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	0	0
Q	2	2. 演習	0	1	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	1	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	0	0
Q	3	3. レポート	0	1	1
Q	3	4. その他　具体的に：	外部評価		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	0	0
Q	4	2. やや思う	0	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	1	1	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	0	0
Q	6	2. やや思う	0	0	0
Q	6	3. あまり思わない	1	1	1
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	保育実習Ⅰ(保育所)と幼稚園実習Ⅱの部分実習、責任実習を振り返り、最後の責任実習に向けて、指導案の再考を十分に行った。	3歳未満児の実態と保育方法について、写真やイラストを用いた資料を作成し、授業を行った。	事前指導では、責任実習の準備をグループで行い、案を出し合い、より良い指導案の作成に取り組んだ。事後指導では、自己の実習を振り返えると共に、新・保育環境評価スケールを用いた人的・物的環境のあり方から、新しい知識や技術が身につけられるようにした。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	0	1	1
Q	9	3. あまり思わない	1	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例		予習・復習が十分に行えるように、シラバスを改善する必要がある。	予習・復習が十分に行えるように、シラバスを改善する必要がある。 幼稚園実習Ⅱ終了から保育実習Ⅱまでの期間が短いため、計画的に授業内で実習準備ができるようにする。

		年度	2021	2021	2021
		期	通年	通年	通年
Q	1	授業者	戸淵幸夫・森下順子・桐山由香・小田真弓	秋吉博之	村上　凡子
Q	1	授業名	保育内容実践研究	教科実践研究	専門ゼミナールⅠ
Q	2	授業の形態			
Q	2	1．講義	1	1	0
Q	2	2．演習	1	0	1
Q	2	3．実験	0	0	0
Q	2	4．実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1．期末試験	0	0	0
Q	3	2．平常点（小テスト・小レポート等）	1	1	0
Q	3	3．レポート	1	0	0
Q	3	4．その他　具体的に：	演習カードの記述内容、模擬授業の取り組み状況、発言内容		シラバスに準じて、レポートと口頭発表、受講態度で評価した。
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1．そう思う	0	1	0
Q	4	2．やや思う	0	0	0
Q	4	3．あまり思わない	1	0	0
Q	4	4．そう思わない	0	0	0
Q	4	5．該当しない	0	0	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1．そう思う	1	1	1
Q	5	2．やや思う	0	0	0
Q	5	3．あまり思わない	0	0	0
Q	5	4．そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1．そう思う	0	1	1
Q	6	2．やや思う	1	0	0
Q	6	3．あまり思わない	0	0	0
Q	6	4．そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1．そう思う	1	1	1
Q	7	2．やや思う	0	0	0
Q	7	3．あまり思わない	0	0	0
Q	7	4．そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	実践力を高めるため更に教材研究したい。	予習や復習がやりやすいような場を設定した。さらに授業中には互いに学び合えるような場を設定し、成果をあげた。	毎回の時間に、進行役を設け、公平に出番が回ってくるようにした。全体を見渡し、進行役をすることで人前で話す経験を積むことができたと考える。研究の本質を習得するために、まず論文の精読を課し読解力向上を図った。その後、倫理委員会申請用の研究計画書の作成ならびに質問紙作成の過程では全員で相互に議論をし、互いに納得できる研究を目ざした。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1．そう思う	0	0	0
Q	9	2．やや思う	0	1	1
Q	9	3．あまり思わない	0	0	0
Q	9	4．そう思わない	1	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	担当教員の打ち合わせを丁寧にしたい。	終末期にオンライン授業となり、授業進度にやや課題が見られた。今後、改善に取り組みたい。	基本的には同様の授業方法で進行し、ゼミ生の興味、関心、能力に応じて随時改善を図っていきたい。

		年度	2021	2021	2021
		期	通年	通年	通年
Q	1	授業者	秋吉博之	小林　康宏	戸澗幸夫
Q	1	授業名	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅠ
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	0	0
Q	2	2. 演習	1	1	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	0	0
Q	3	3. レポート	1	1	1
Q	3	4. その他　具体的に：	論文講読を行い，作成したレポート及び発表内容，全体討議の参加状況によって評価を行った。	発表内容	卒業研究の取り組み状況、ポートフォリオの内容
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	1	0	0
Q	4	2. やや思う	0	0	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	1
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	0	1	0
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	1	1
Q	5	2. やや思う	0	0	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	1	1	0
Q	6	2. やや思う	0	0	1
Q	6	3. あまり思わない	0	0	0
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	1	1
Q	7	2. やや思う	0	0	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	学生の興味・関心に沿って課題を提示して論文の講読を行うことで，学生の取組に深まりが見られた。		実践力を高めるため更に教材研究したい。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	1	1	0
Q	9	3. あまり思わない	0	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	1
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	講読する論文の質を高めることが課題である。		所属ゼミ生との打ち合わせを丁寧にしたい。

		年度	2021	2021	2021
		期	通年	通年	通年
Q	1	授業者	木本毅	桑原　義登	溝口希久生
Q	1	授業名	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅠ
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	1	1	0
Q	2	2. 演習	1	1	1
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	0
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	0
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	1	0	1
Q	3	3. レポート	1	1	1
Q	3	4. その他　具体的に：	議論への参加	取り組み姿勢、義務づけたレポートの提出状況や提出物の内容	主に卒論のために課題探究に関して評価した。
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	0	0
Q	4	2. やや思う	0	1	0
Q	4	3. あまり思わない	0	0	0
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	1	0	1
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	1	0	1
Q	5	2. やや思う	0	1	0
Q	5	3. あまり思わない	0	0	0
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	1	0	0
Q	6	2. やや思う	0	1	0
Q	6	3. あまり思わない	0	0	1
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	1	0	1
Q	7	2. やや思う	0	1	0
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	学習指導要領や生徒指導提要、教職論・教育制度論テキストについて、学習ポイントを指定し要点・理論をレポート・発表させ全員で議論を深めた。	個別指導の時間を多く取るとともに、発表会の機会も多く取りました。	小人数であったため、出来る限り学生個々の能力や状況に応じた指導を心がけた。
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	0	0
Q	9	2. やや思う	0	1	1
Q	9	3. あまり思わない	1	0	0
Q	9	4. そう思わない	0	0	0
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	特記事項無し。		

		年度	2021	2021	集計
		期	通年	通年	
Q	1	授業者	辻伸幸	山本紀代	
Q	1	授業名	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅠ	
Q	2	授業の形態			
Q	2	1. 講義	0	1	21
Q	2	2. 演習	1	1	32
Q	2	3. 実験	0	0	0
Q	2	4. 実習・実技	0	0	10
Q	3	成績評価の方法			
Q	3	1. 期末試験	0	0	17
Q	3	2. 平常点（小テスト・小レポート等）	0	0	25
Q	3	3. レポート	0	1	25
Q	3	4. その他　具体的に：	発表の内容やレジメ		
Q	4	前回の授業アンケート結果を受けての改善			
Q	4	1. そう思う	0	0	16
Q	4	2. やや思う	0	0	14
Q	4	3. あまり思わない	0	0	5
Q	4	4. そう思わない	0	0	0
Q	4	5. 該当しない	1	1	22
Q	5	意欲的に参加できるような工夫			
Q	5	1. そう思う	0	1	44
Q	5	2. やや思う	1	0	12
Q	5	3. あまり思わない	0	0	1
Q	5	4. そう思わない	0	0	0
Q	6	シラバス等の工夫			
Q	6	1. そう思う	0	1	18
Q	6	2. やや思う	0	0	22
Q	6	3. あまり思わない	1	0	17
Q	6	4. そう思わない	0	0	0
Q	7	授業内容の理解を深めるような工夫			
Q	7	1. そう思う	0	1	48
Q	7	2. やや思う	1	0	9
Q	7	3. あまり思わない	0	0	0
Q	7	4. そう思わない	0	0	0
Q	8	改善や工夫の具体的事例			
Q	8	具体的事例	・卒業研究につながる論文の輪読を実施した。 ・月一回は、英語運用力を養成する授業を組み入れた。 ・国際交流活動として和歌山県の支援を得て中国の大学生とのオンライン交流を2回実施した。 ・本学で開催された英語教育の研究会に学生を参加させ、学ばせた。	各学生のテーマに合わせた論文を紹介した。学会やセミナー等外部で学ぶ機会の情報提供を行った。各学会等のプログラムや内容の一覧を配布し、興味のあるものの資料を印刷し提供した。	
Q	9	授業アンケート結果を受けての改善			
Q	9	1. そう思う	0	1	6
Q	9	2. やや思う	1	0	37
Q	9	3. あまり思わない	0	0	9
Q	9	4. そう思わない	0	0	5
Q	10	改善点があれば　具体的			
Q	10	具体的事例	・卒業研究に結び付く指導を計画的に実施していく。 ・国際交流活動を継続していく。	研究の進め方や方向性について時間を費やして個人的に指導する時間を増やした。	

令和４年６月
和歌山信愛大学

２．令和３年度の委員会等の活動報告

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

入試委員会
今年度の活動目標・計画（改善を含む） 　コロナ関連も含めて文部科学省等のガイドラインに沿って、募集要項にある入学試験を適切に実施する。
【目標・計画に対する活動内容】 ①　入試委員会の実施 ②　入学試験の実施 ③　オープンキャンパス・入学相談会の実施 ④　教員・教育関係者への大学説明会の実施 ⑤　保育系志願者を生み出すためのリーフレットの作成 ⑥　出張講義のリーフレットの作成 【根拠資料】 ※配布・公開したチラシ・議事録等
【自己評価】 　コロナ禍の中ではあったが、大過なく入学試験を実施することができた。
次年度の目標・計画（改善を含む） 　入学試験を適切に実施するとともに、和歌山信愛大学の認知度をさらに上げるための行事を行う。

令和　４　年　３　月　８　日

責任者職位・氏名

アドミッション・オフィス長

原　義則

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

学科・委員会・センター等 教務委員会 　教務委員会では、教育課程の編成、試験、入学・休学・退学・転学、学籍の移動等の教務に関する事項について審議し、実施している。
今年度の活動目標・計画（改善を含む） ・大学完成年度に向けて、当初の計画に沿って教育課程の編成を行う。 ・試験、入学・休学・退学・転学、学籍の移動に関して、学内での体制を整えて実施する。
【目標・計画に対する活動内容】※具体例等 ・別紙のように、年間計画にしたがって審議し、実施してきた。 【根拠資料】 ・別紙「2021 年度教務委員会報告」のとおり。なお、教務委員会議事録については大学サーバーに保管し、教職員間で共有している。
【自己評価】 ・大学設置 3 年目までの教育課程の編成については、これまで適切に実施した。 ・試験、入学・休学・退学・転学、学籍の移動に関して、学内での体制を整えて実施してきた。
次年度の目標・計画（改善を含む） ・大学設置 4 年目にあたり、教育課程の編成について適切に実施する。 ・大学設置 5 年目を見据えて、教育課程の編成について準備を整えていく。

令和　4 年　3 月　14 日

責任者職位・氏名

教務委員長　　秋吉博之

2021年度　教務委員会　報告

4月 26日　月	**年間議題の確認**
5月 24日　月	**授業評価アンケートについて(手順の確認・内容の検討)** 教室管理備品の貸出について
6月 21日　月	**前期定期試験について(様式・要領の確認)** **試験後について(出欠入力・成績報告・ガイダンス等の日程確認)** **授業評価アンケート（実施手順）** 就職活動時の配慮欠席の取り扱いについて
7月 19日　月	4年次の時間割と3免取得学生の対応について（2022年度時間割）
9月 27日　月	**前期定期試験の振り返り** **シラバス作成について**
10月 18日　月	開催せず
11月 15日　月	**次年度教務年間計画（案）について** 設置計画履行状況調査（実地調査）について （シラバス予習復習記載、実践キャリア教育、インターンシップ）
12月 20日　月	**後期定期試験・後期末ガイダンスについて**
1月 24日　月	**3月末のガイダンスについて** （行事計画、時間割について→随時メール配信） 3年次末のGPAが3.0未満の学生の履修に関しての内規
2月 21日　月	**今年度の評価（次年度に向けて）・報告書**
3月 28日　月	開催せず

※太字：当初計画事項、細字：追加事項

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

学科・委員会・センター等

宗教委員会

今年度の活動目標・計画（改善を含む）

「キリスト教的価値観に基づく人格形成」、「地域と社会に貢献する人材の育成」という和歌山信愛大学の建学の精神、それに基づく教育理念、教育目的について理解の深化を図るため、教職員を対象とした研修を FD・SD 研修の一環として実施する。また、学生を対象とした以下の行事の企画、運営を、宗教委員会として担う。

〇1 年生対象　クリスマスのつどい
〇2 年生対象　コースまっとうを祈るつどい
〇3 年生対象　進路決定を祈るつどい
さらに、全教職員、学生が参加できる学内ミサも毎月開催する。

【目標・計画に対する活動内容】

1. FD・SD 研修　学長講話
20221 年 5 月 31 日
2. 宗教行事
(1)毎月の学内ミサ
(2)2021 年 12 月 11 日　第 1 学年対象「クリスマスの集い」の実施
(3)2022 年 2 月 7 日　　第 2 学年対象 「コースまっとうを祈る集い」
(4)2022 年 2 月 16 日　第 3 学年対象「進路決定を祈る集い」
(5)「十字架の道行き」 展示

第 2 学年、第 3 学年対象の集いはもともと各々コースまっとう祈願ミサ、進路決定祈願ミサとして予定されていた。ミサに向けて、教職員分を含めて約 200 部のミサ式次第冊子を宗教委員会委員福永先生が作成した。しかしながら、感染症対策に万全を期するため、ミサではなく集いに切りかえた。式次第は来年度以降活用することとする。

【根拠資料】

※配布・公開したチラシ・議事録等
〇上記（1）に関連する資料のファイル名
ミサポスター5月　案内掲示用

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

ミサポスター6月　案内掲示用
ミサポスター7月　案内掲示用
ミサポスター8月　案内掲示用
ミサポスター9月　案内掲示用
ミサポスター10 月 14 日　案内掲示用
ミサポスター10 月 28 日案内掲示用
ミサポスター11 月 11 日　案内掲示用
ミサポスター11 月 25 日　案内掲示用
ミサポスター12 月 16 日　案内掲示用
ミサポスター1 月 27 日　案内掲示用
ミサポスター2022／2 月 24 日　案内掲示用
〇上記（2）に関連する資料のファイル名
・21 年度　クリスマスの集い　案内
・21 年度　クリスマスのつどい　司会進行
・21 年度　クリスマスの集い　案内
・21 年度　クリスマスの集い　運営スタッフ募集案内
・21.11.25　クリスマスの集い　スタッフ会議　資料.
・21.11.25　クリスマスの集い　スタッフ会議　決定事項
〇上記（3）に関連する資料のファイル名一覧
・和歌山信愛大学第2学年　コースまっとうを祈る集い　プログラム
上記（4）に関連する資料のファイル名.
・和歌山信愛大学第3学年進路決定を祈る集い　プログラム
・21 年度　第 3 学年　進路決定祈願の集い　共同祈願
〇上記（5）に関連する資料「十字架の道行き　展示文」

【自己評価】

学生を対象とした上記3つの集いに、特段の事情がある学生数名を除いてほぼ全員参加した。高い参加率は建学の精神の理解を図るという目標に迫ることができた証と考える。特記事項として第１学年対象の「クリスマスの集い」の運営スタッフ 14 名は、自発的に応募したメンバーである。自分をさしだす精神を体現したものとして捉えられる。これまでの教職員による関わりの成果として捉えられる。

次年度の目標・計画（改善を含む）

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

○大学が行う宗教的な行事に参加することを通して建学の精神についての理解を教職員、学生全体で深められるようにする。 ・これまでの行事に加えて、卒業ミサの開催に向けて計画的に準備を進める。 ・各種行事の運営スタッフを務めた学生との対話を通して、応募動機やスタッフ経験の教育効果等についての把握に努めたい。

令和　4年　3月　8日

責任者職位・氏名　　星野正道
（委員長）

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

学科・委員会・センター等 教職課程委員会
今年度の活動目標・計画（改善を含む） 教育職員免許法及び児童福祉法施行規則上の教科目に関する事項について審議し、円滑に実施する。
【目標・計画に対する活動内容】 1．教職履修カルテの指導・運営（ガイダンス含む）と教職実践演習科目担当者との全体会の実施。 2.「実習に関わる個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン」の改訂 3. 教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準等の改正に伴う、「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に関する事項（ICT 事項）関連の新設等の計画（2022 年 4 月 1 日施行）。 4. 教職課程の自己点検・評価の義務化に伴う、全学的な取組への組織決定。 【根拠資料】 議事録 ①4/19 ②7/26 ③9/24 ④10/28
【自己評価】 計画どおり、円滑に実施された。
次年度の目標・計画（改善を含む） 1．教職履修カルテの指導と運営の継続 2. 教職課程 事後調査対応（免許法施行規則附則第 7 項、総合的な学習の時間の指導法） 3. 教職課程自己点検評価報告書の作成 4. 免許・資格申請手続き 5. 変更届の作成（年度末）

2022（令和 4）年 3 月 14 日

教職課程委員長　森﨑 陽子

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

学科・委員会・センター等

実習担当者会議

今年度の活動目標・計画（改善を含む）

1. 本学教育の根幹となる実習の在り方について検討を深める。
2. 本学の全ての実習における学びの体系化を図り、教育効果を高める。
3. コロナ感染症等、実習における危機管理に対する学生の意識を高める。
4. 学外（主に和歌山市教育委員会、短期大学、実習先）関連施設との、密接な連携を図る。
5. 学生に、本学の実習に対する理解を深めさせる。

【目標・計画に対する活動内容】

1. 実習担当者会議（全体）を軸に、グループ長、小学校実習担当者、幼保実習担当者を、適宜必要に応じ集結し、課題、問題等の検討会議を実施した。

   ①幼保関連の実習

   ・外部評価 3.0 未満の学生の事後指導の在り方について

   ・シラバス及び指導方法の改善について

   ②小学校実習

   ・「教育実習（小学校）学びの軌跡」の完成

   ③全体

   ・実習ガイダンスの実施

   ・実習に関わる個人情報の適切な取り扱いのためのガイドラインの改訂

   ・実習指導・評価の在り方について共有と連携
2. 和歌山市教育委員会、実習先との連携を密に行った結果、予定された実習をすべて実施することができた。
3. １年生を対象に実習ガイダンスを実施した。また、2，3 年生にもガイダンスを行い補完した。

【根拠資料】

実習担当者会議議事録

【自己評価】

1. 幼保関連の実習指導において、外部評価が 3.0 未満の学生の指導体制を組んだが、徹底した指導を全うすることができなかった。シラバス及び指導法についても継続しての検討改善が必要である。
2. 実習後の指導期間が長くなり、次の実習への課題の申し送りが遅くなった。体系

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

的な指導効果を高めるまでにいたらなかった。対策を講じる必要がある。 3. コロナ感染症拡大に伴い、実習延期・中止等事態が起こったが、担当教員の判断の下、和歌山市教育委員会、実習先と密な連携を取り協力を得、全ての実習を実施することができた。 4. 実習期間内に起きた問題に対し、担当教員と実習先との迅速な対応連携により対処することができた。 5. 実習ガイダンスを実施したことで学生は、実習に向かう心構え、本学の実習先の選定方法等の理解を深めることができた。 6. 「教育実習（小学校）学びの軌跡」を完成させることができた。
次年度の目標・計画（改善を含む） 1. 担当者は、実習が本学教育の根幹であることを自覚し、指導法の研鑽に取り組む。 2. 各実習の学びを繋ぎ、教育効果を上げるために、各実習終了後の学生指導、評価、会議開催は、設定した期間内の実施を試みる。 3. 担当者は、学生達の保育・教育に対する心構えを育むとともに、自己管理が徹底できる意思の強さを育てる働きかけを行っていく。

2022（令和4） 年 3月 14日

実習担当者会議議長

森﨑 陽子

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

学科・委員会・センター等 学生委員会
今年度の活動目標・計画（改善を含む） 　コロナ禍における学生の生活及び学習面の支援と、学生の主体的活動への支援を行う。
【目標・計画に対する活動内容】 1. コロナウィルス感染症の予防措置及び学生への注意喚起 2. 学生の主体的活動の支援 　学生執行部の運営（掲示板の運用、提出ボックスの運用、年末大掃除の実施）支援 　サークル活動の支援 3. 行事・その他の活動の企画運営の支援 　第 53 回紀州踊り「ぶんだら節」への参加、2021 年度学園祭「第 2 回和信祭」の企画運営の支援 【根拠資料】 学生委員会議事録
【自己評価】 　コロナウィルス感染症の感染状況に苦慮しつつ、学生の活動制限、行事等の実施の判断を適宜行い、概ね計画を遂行することができた。 　しかし、執行部の運営では、依頼し使用許可を受けた「提出ボックス」の活用ができなかったこと、活動制限があったとはいえ、多くのサークルの活動が低迷したこと等が反省点として上げられる。
次年度の目標・計画（改善を含む） 　引き続きコロナウィルス感染症感の染状況を見定めた上、学生の健康と安全な学校生活の保持を最優先に考える。その上で、学生の主体的な活動を、できる限り支援し、学生の大学生活の充実を図ることを目標とする。 　具体的には、コロナ感染症予防措置、注意喚起の継続、学生自治会組織の確立と育成、サークル活動組織の立て直しと育成、学園祭等の行事、その他の活動の企画運営の学生支援を行っていく。

2022（令和4）年　3　月　14　日

学生委員会委員長

森﨑　陽子

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

学科・委員会・センター等

キャリアセンター（進路就職委員会）

今年度の活動目標・計画（改善を含む）

1年次から3年次の学生一人ひとりが主体的に自分の適性や希望に沿った進路を見いだすために、教員と連携しながら各学年に応じた多彩なキャリア形成支援・就職支援プログラムや行事を実施し、学生が満足できる就職・進学ができるよう支援をする。

【目標・計画に対する活動内容】※具体例等

①学生や教職員に対する適切・的確な就職情報の収集及び発信、学生・教職員との就職活動状況等の情報交換・・・本学独自のキャリア支援システムの構築（キャリタス UC）

②本学教員の就職指導や学生の就職活動のサポート体制の充実・・・学生の進路別就活において適切に支援してくれる外部連携機関の開拓と連携・協力関係づくり

③本学就職活動のルール作りと教員・学生への周知・・・「就職の手引き」の発刊と指導

④学生の就活スケジュール感の醸成や就活へのモチベーションを向上させるための系統的・計画的な進路別就職支援プログラムの構築と実践・・各種特別講座、ガイダンス・セミナー、相談会、校内合同企業説明会の企画・立案・実施

⑤本学キャリア形成科目との連携サポートプログラムの企画・実施・・キャリアデザイン、キャリアガイダンス、インターンシップ、ボランティア実習

⑥学生が気軽に訪問できるキャリアセンター室の整備・・・就職関連資料や書籍・問題集・参考書の整備、掲示物の工夫

【根拠資料】

※キャリア支援システム内にこれまでの各種講座・セミナー・ガイダンス等の要項を掲載している。

「就職の手引き」も参照願います。

なおサイボウズファイル管理内にも「和歌山信愛大学キャリア活動（公開）」にて情報公開している。

【自己評価】

今年度の目標・計画を実現するための活動内容は概ね実施し、目標は達成された。

次年度の目標・計画（改善を含む）

入学から卒業・修了にいたるまで、教職員と一層連携しながら、一人ひとりの学生が主体的に自分の適性や希望に沿った進路を見つけられるよう多彩な行事やプログラム等を通して、学生が満足できる就職・進学ができるよう支援をする。一層学生側のニーズにあった、時期も適切なキャリア形成支援・就職支援プログラムを開発し、実施する。

令和　4年　3 月14日

責任者職位・氏名　キャリアセンター長　味村 昌彦

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

学科・委員会・センター等 図書委員会
今年度の活動目標・計画（改善を含む） 図書館利用の一層の促進を図り、教育・学習・研究を多方面から支援する。
【目標・計画に対する活動内容】 ○統計　2021 年度　1 年～3 年生（2 月末日統計） [貸出] 学生図書貸出数　1,081 冊　555 人　1 日平均 4.2 冊 2.2 人 （うち、市民図書館より借受けた絵本の貸出数　110 冊　74 人） [相互利用] 文献複写・・・127 件　現物借受・・・21 冊 [参考業務] 51 件 ○和歌山信愛女子短期大学図書館との連携：借受図書 15 冊　雑誌 6 冊　新聞 2 ○授業・実習等で必要な絵本の蔵書数をカバーするため、和歌山市民図書館より団体貸出制度を利用し貸出を受けた。（1 年期限 384 冊） ○学生が CiNii などを利用して論文・資料の情報を収集できるよう利用指導。 ○教科担当教員よりデジタル教科書の購入依頼により、国語・算数・英語の 3 科目を整備。 ○国語の教材として国語教科書 2 社に掲載されている本を収集しコーナーを設置。 ○インターンシップ　3 年生 2 名受入。 ○学生を中心に館内展示コーナー設置・POP 作成。（教採・就活、保育・幼稚園学習活動の資料等） ○和歌山地域図書館協議会　フォーラムはオンライン開催に変更「モーツァルトの晩年様式について」
【自己評価】 ○学生を含め相互利用の申込増加により、国立情報学研究所の ILL 料金相殺サービスに参加開始し、支払事務の軽減化をはかった。 ○資料購入費において、教科書や学習指導関連が多く占めており、一般図書の購入に制限をかけざるを得ない状況である。 ○コロナ禍であるため、相互に直接連携には至っていないが、文献複写や現物を借り受けることで連携をはかっている。 ○団体貸出で大量の絵本を長期にわたり借りることができたため、利用者の選択の幅がひろがった。
次年度の目標・計画（改善を含む）

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

○年度末に開学当時からの購読雑誌、電子ジャーナル等を見直し、次年度資料購入の際の資料構成を考える。 ○電子図書の利用が低く、紙媒体の図書が少ない当館の蔵書をカバーするうえでも利用促進を工夫し、同時に紙媒体の図書も貸出実績を増やしていく。

令和 4 年 3 月 14 日

責任者職位・氏名　図書館長

木本 毅

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

学科・委員会・センター等 わかやま子ども学総合研究センター
今年度の活動目標・計画（改善を含む） 　本学の建学の精神に基づき、子どもの心身の成長・発達・生活・文化・教育・福祉・子育て支援等を総合的に研究する子ども学に関して多角的に調査研究及び実践を行い、地域社会への知的還元と支援を多様に展開して公共の利益に貢献することを目標とする。
【目標・計画に対する活動内容】※具体例等 和歌山子ども学総合研究センタージャーナル3号の発行 和歌山子ども学総合研究センターシンポジウムの開催 地域関係機関との連携した研究活動 関係機関への講演等による支援や相談援助活動等 【根拠資料】 ※令和3年度シンポジウムチラシ・わかやま子ども学総合研究センタージャーナル
【自己評価】 ジャーナルの発刊も順調であり、特別研究会員からの投稿や、今年度から認められた学生からの投稿もあり、投稿者の広がりがみられる。（投稿原稿 10 本） 「最近の子どもに関わる問題の現状と課題～教育と福祉の現場からの報告～」と題したシンポジウムを開催して、地域の関係者との連携を深める研修を行った。（参加総数 73 名） 和歌山市こども総合支援センターと連携した活動：適応指導教室での学生と児童生徒の交流活動を行っているが、今後とも連携を深めていく必要がある。
【次年度の目標・計画（改善を含む）】 各活動を積極的に行うことにより地域への本センターの役割や意義を伝えて、地域の関係機関からの相談に対応する開かれたセンターにしていきたい。 次年度は和歌山市こども総合支援センターと連携した企画を充実していきたい。 具体的にはジャーナル4号の発行、シンポジウムの開催、関係機関からの要請による教育・相談支援活動を活発に行っていく。

令和　4　年　3　月　10 日

責任者職位・氏名　わかやま子ども学総研究センターセンター長　桑原　義登

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

学科・委員会・センター等

きょう育の和センター（地域連携委員会）

地域社会に開かれた大学として、さまざまな地域連携や産学官連携の総合窓口としてきょう育の和センター（地域連携委員会）を設置する。

今年度の活動目標・計画（改善を含む）

1. 和歌山県から和歌山信愛大学に委託されて実施する事業
2. 和歌山県子育て支援員研修の企画・運営
3. 和歌×mono まちなか学園祭「ぶらっちょ」の参加
4. 動画配信
5. わかまなび・子育て支援キャラバン隊の活動
6. 地域に係る正課の授業

【目標・計画に対する活動内容】※具体例等

1. 和歌山信愛大学子どもフエスタ in 有田 2021 の開催

日時　　令和 3 年 11 月 27 日(土)　午後1～4時

場所　　有田市文化福祉センター

共催　　有田市　和歌山信愛大学

後援　　和歌山県

参加者

子育て支援キャラバン隊＋有志学生　44 名、信愛大学教職員　8 名

有田市副市長を始め保育園園長等　約 40 名

大人 103 名、子ども約 50 名

2. 和歌山県子育て支援員研修の企画・運営

子育て支援員研修コーディネーター阪田先生ときょう育の和センター委員森下先生が中心となり子育て支援サポーターを育成するための講座を信愛大学、和歌山市・田辺市の公共施設にて開催。

①子育て支援研修　和歌山市・田辺市　合計 120 名

②子育て支援員専門研修放課後児童コース　和歌山市・田辺市　合計 133 名

③子育て支援員専門研修地域保育コース　和歌山信愛大学　合計 30 名

④子育て支援員専門研修放課後児童コース　和歌山市　合計 93 名

⑤専門研修・子育て支援コース／利用者支援事業　合計6名

学生は希望により講座に参加する。

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

3. 和歌×mono まちなか学園祭「ぶらっちょ」の参加 10 月 30 日（土）和歌山城砂の丸公園にて、紀の国わかやま文化祭 2021 の一環として行われたイベント和歌×mono まちなか学園祭「ぶらっちょ」に、和歌山信愛大学の学生（1 年生男子 2 名、女子 18 名）がボランティアで参加 「松笠のミニクリスマスツリー」の材料 60 人分、「ハロウィーンの帽子作り」の材料 60 人分すべて使用 保護者合せて250名参加。 **4. 動画配信 お家時間を楽しもう** 昨年度に引き続き、コロナ禍でも親子が家庭で楽しく過ごせるよう、以下の動画を YouTube にアップし和歌山信愛大学ホームページで配信した。 からだを動かそう 6 本 作って遊ぼう 6 本 紙パク人形劇 14 本 その他も計画通り実施 【根拠資料】 ※2021 年度きょう育の和センター活動報告書参照
【自己評価】 2021 年度きょう育の和センター活動報告書に示した通り、コロナの感染拡大の中、学生・教員が一丸となり地域貢献ができたと考える。
次年度の目標・計画（改善を含む） 基本的には、今年度と同様の内容を進めるが、夏季休業日に「子ども大学」開校などを検討する。

令和4年 2 月24日

責任者職位・氏名

きょう育の和センター長 戸澗幸夫

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

学科・委員会・センター等 事務室（会計・総務・環境）・図書館・医務室・教学センター（キャリアセンター含む）
今年度の活動目標・計画（改善を含む） ①学生への学修支援（広報活動・入学・学生生活・授業の履修・キャリア活動・卒業）への継続的支援体制の構築と維持 ②大学運営の事務（会計・総務・環境・図書館・医務室・教学センター（キャリアセンター含む））に関する体制の構築と維持 ③大学施設・設備・備品の新設・維持・管理 ④校内環境の維持管理体制の構築 ⑤SD 活動の継続的体制の構築・維持 ⑥【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書の作成及び審査対応 ⑦地域貢献の実施
【目標・計画に対する活動内容】※具体例等 ①大学案内等広報関係チラシの作成・オープンキャンパスの企画運営・入学試験の企画運営・新入学生を含む各学年ガイダンスの実施・年間授業計画の作成・キャリア関係セミナー・試験等の企画運営・就職の手引きの作成・就職関係ガイダンスの実施・キャリア関係授業の補助・学生の健康診断実施の企画運営及び結果の保管管理等を実施した。 ②会計・総務・環境・図書館・医務室・教学センター（キャリアセンター含む）に適切な人員を配置し、必要な備品・設備等を配備している。 ③2 号館の屋上防水工事、敷地南側の塀の撤去工事、各施設等の維持修繕、中講義室 2・心理学演習室への大型スクリーン及びプロジェクターの設置、各法令点検に従った点検の実施と結果に基づく維持修繕の実施、体育館内の維持管理の為の工事の実施 ④校内環境の維持管理体制の構築のために用務員を配置し、日々の清掃の実施 ⑤SD 活動の継続的体制の構築・維持 　事務職朝礼の実施、日々の学校行事等（事務的な行事も含む）の確認を行い、事務職員間の連絡体制を継続して構築する。教授会審議事項の内容確認及び各部署の対応について周知している。 ⑥【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書の作成を行い、面接審査の対応業務を行った。 ⑦近隣幼稚園等へのグラウンド等の貸出、体育館の避難所・選挙投票所に提供

自己点検・評価シート（2021 年度活動）

【根拠資料】①（入試関係）大学案内、広報関係チラシ、OPC関係チラシ、入試関係各資料　（教務関係）各ガイダンス資料、学生便覧、履修のてびき、シラバス　（キャリア関係）キャリア関係のチラシ等、就職の手引き（医務室）健康診断案内等 ②和歌山信愛大学教職員名簿、固定資産台帳、監事監査報告書 ③物品購入伺、修理伺等稟議済み書類、各法令点検に基づく結果報告書 ④和歌山信愛大学教職員名簿 ⑤事務職員朝礼実施のお知らせ、教授会議事録 ⑥【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書、審査対応メール ⑦和歌山信愛大学　グラウンド利用、施設使用願、各依頼文書、協定書
【自己評価】①新型コロナ感染症拡大防止対策を行い計画通り実施できた。 ②会計・総務・環境・図書館・医務室・教学センター（キャリアセンター含む）に適切な人員を配置し、必要な備品・設備等を配備している。また、今後も業務品質の確保の為にも人的物的に継続的な補充等を行っていかなければならない。 ③工事は全て計画通り実施できた。配管漏れ等の維持修繕にも対応を行った。 ④常駐用務員を配置。臨時の用務員も確保し繁忙期には応援作業を行っている。 ⑤事務職朝礼を実施。教授会等の決定事項も口頭及び議事録にて示している。 ⑥【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書の提出、10 月には実地審査対応。 ⑦大学施設の地域への貸出による地域貢献ができている。
次年度の目標・計画（改善を含む） ①学生への学修支援（広報活動・入学・学生生活・授業の履修・キャリア活動・卒業）への継続的支援体制の構築と維持 ②大学運営の事務（会計・総務・環境・図書館・医務室・教学センター（キャリアセンター含む））に関する体制の構築と維持 ③大学施設・設備・備品の新設・維持・管理 ④校内環境の維持管理体制の構築 ⑤SD 活動の継続的体制の構築・維持 ⑥【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書の作成及び審査対応 ⑦地域貢献の実施

令和　4　年　3　月　10 日

責任者職位・氏名　　事務長　塩﨑　増仁

令和４年６月
和歌山信愛大学

３．令和３年度ＦＤ・ＳＤ活動

和歌山信愛大学　2021 年度 FD・SD 研修会実施計画及び結果

2022/03/31

自己点検評価委員会

■ 年間計画

【　】は実施の立案、運営、実施報告書作成等の担当者

第 1 回　5/31（月）「建学の精神と信愛教育」 講師：森田学長【星野先生】
対象：本学教職員
場所：中講義室 1
第 2 回　7/26（月）「学生理解の視点－LGBTQ についての理解を深める－」【桑原先生】
対象：本学教職員
場所：中講義室 1
※別紙の細案を参照
第 3 回　9/13（月）教育研究についての研修【江口先生、中村俊之先生】
対象：助手の方を含むすべての教員
場所：中講義室 1
第 4 回　11/24,25,26,29「授業改善に向けた取組－学修の評価と評定－」【秋吉】
対象：助手の方を含むすべての教員
〇授業参観（下記の村上先生の授業のいずれかを参観）
11/24（水）2 限 教育心理学（1 年 B）
11/25（木）2 限 特別支援教育・保育Ⅱ（3 年幼保）
11/26（金）2 限 教育心理学（1 年 A）
〇研究協議 11/29（月）15:30～16:30
第 5 回　3/14（月）「2021 年度のまとめ（委員会等の活動報告）」【塩崎先生】
対象：本学教職員
場所：中講義室 1

※全員参加が可能な実施時間を確保する。

■ 実施にあたっての提案・審議

・【担当者】が自己点検評価委員会で提案・審議のうえ、教授会で提案する。

■最終結果（2022 年 3 月末日）

・上記計画に基づき、2021 年度 FD・SD 研修会を全て実施した。

以上